

第54回 あたらしく出たくすり

2万分の1の確率。これは新しいくすりがさまざまな試験を通過して世に出てくる確率です。2万個のくすりの候補となる成分から、世の中に出てくるのは、たった1個だけだそうです。さらに、くすりには安全性や有効性が強く求められるため、初めに発見してから、10年以上の歳月を経てようやく販売されるのです。今回はここ数年の間に当院に採用された主に内服薬についてみていきたいと思います。

最近の新薬のトレンドに、Xa（テンエー）阻害剤というものがありました。血液が固まるのを防ぐ新しい作用点です。今までは血液凝固阻止というとワーファリンくらいしかありませんでしたが、Xa 阻害剤の登場で選択肢が広がりました。当院では3剤が採用になりました。

プラザキサ：「Prazaxa」の最初のPRは“precision（正確）”と“prevention（予防）”の2つの言葉、すなわち「確かな予防」を象徴している

リクシアナ：Reliable（信頼できる）とXa（作用機序）の語感よりリクシアナ（LIXIANA）と命名

イグザレルト：第Xa 因子（作用部位）を含む用語を用いた合成用語より「Xarelto」と命名

リクシアナのみ他の2剤とは異なり、手術後の静脈血栓症に対して使用されます。どちらも、腎機能によって投与量が調節されるため、腎機能が悪い患者には注意が必要です。

光学分割という方法も、新薬の傾向としてありました。光学分割とは、通常では分離しにくいものを、特殊な方法で分離してより効き目があるものを取り出してくすりにする方法です。これにより、副作用や相互作用が減ることや、より高い効果を示すことができることが利点です。当院では2種類が新たに採用されました。

ネキシウム：Next Millenniumに由来

ザイザル：特になし

それぞれネキシウムはオメプラール（胃酸抑制剤）、ザイザルはジルテック（抗ヒスタミン剤）を光学分割して誕生したものです。

以上2つのトレンドとは関係ないですが、採用されたものを3剤見てみましょう。

リリカ：QOL 改善のイメージが可能であり、読み、聞き、書いた場合に印象が良い言葉「Lyric:叙情詩（Music）」、「Lyrical：叙情的な」を由来とする。

リリカは従来の痛み止めでは効きづらい、神経による痛みにも効くくすりとして発売され、新しい効果を持ったくすりとして幅広く使用されています。

ロゼレム：「健やかな眠りを取戻し、バラ色の夢を見ましょう」との願いを込めて「ROSE REM」から命名された。

ロゼレムは不眠症のくすりとして、今までにない作用を持ったくすりとして登場しました。具体的には睡眠のバランスをつかさどるホルモンであるメラトニンの効きを調節することによって眠りに導きます。従来の睡眠薬とことなり、精神系への影響が少ないため、高齢者などでも安全に使用されるという特徴があります。

次回はけいれんを止めるくすりです。